

分科会の記録 <第3分科会 教育環境整備に関する課題>

【提言者1】鳥取県 米子市立福生中学校 森脇 宏

【提言主題】生徒の自主的活動による安心・安全な学校づくりと教頭の関わりについて
— 「楽しく安全な学校づくりサミット」の取組をとおして —

【協議の柱】生徒の自主的活動による安心・安全な学校づくりにおける副校長・教頭の関わり

【グループ協議 報告】

- ・ICTの活用は不登校の子どもと教室（学校）をつなぐのに有効である。不登校の子どもにタブレット端末で授業の様子を配信したことで、登校する日数が増えた。
- ・教頭は、ICTを活用した組織的対応を進めたり職員間の共通理解の場を設定したりするためのマネジメントに取り組みなくてはならない。
- ・中学校区で「いじめ防止サミット」を実施し、児童生徒と中学校区共通のきまりやSNSの問題について話し合い、各学校に持ち帰り情報共有を図っている。またPTAと合同で通学路点検や地域の危険箇所等の合同点検を行い子どもたちの安心・安全を確保している。教頭はそのコーディネートをしている。
- ・生徒指導部会に教頭が参加し、学校内の生徒間のトラブル等の把握に努めていることで、いじめの認知件数が増加した。
- ・教頭自身が全ての相談を受けて解決しようとする点は反省点である。職員が協働して解決を図ろうとする体制をつくるのが大切であり、生徒や教員の中にリーダーを育てていくことも教頭の大切な役割である。
- ・様々な人が活躍してもらえるように意識してつなげることが大切である。人を育てつなげる力を培うこと、そこに教頭としての資質が問われる。
- ・継続的なシステムがあり大変良かった。担当教員の思いを他の教員に広めていく際の教頭としての役割はどうあるべきか、この点が悩みである。

【指導助言：全公教顧問会】（徳島県上板町立高志小学校長 中川 齊史 氏）

- ・現在、副校長、教頭が最も関心が高い事項は、自然災害であろう。気温と子どもの成績の相関は、26度以上になると成績が下がる。このような情報を教育委員会との交渉材料に使うこと、エビデンスに基づいた説明をしていくことが大切である。
- ・教頭としての連絡調整は大切な役割である。常に取り組みの目的に立ち返る視点を忘れてはならない。当事者として関わっているわけではないので、様々な視点からの提案が可能であり、様々な形で発信していくことが大切である。
- ・環境整備の取り組みを、学校のカリキュラムとしてきちんと位置付けることが大切であり、継続し試行錯誤して改善していくことが可能となる。
- ・小中連携、コミュニティスクール等、地域の中での連携が大切であることが叫ばれているが、やらされ感をもって取り組むのではなく、必要感をもって取り組むことが大切である。教職員が取り組んでみたくなるような、取り組みを誘発させるような工夫をしてほしい。
- ・VUCAといわれる時代になっている。（※ Volatility（変動性）・Uncertainty（不確実性）・Complexity（複雑性）・Ambiguity（曖昧性））子どもが置かれている状況、家庭環境の複雑さが顕著な時代であり、未来の変化を予測するのが難しい時代である。Society3.0の時代にはPDCAサイクルがうまく機能していたが、現在はsociety5.0の時代であり、PDCAの取り組みがうまく機能しなくなっている。今、我々が取り組まなくてはならないことはリサーチである。世の中の流れ、地域の実態を適切に把握することが大切である。特に、現在取り組んでいるキャリア教育については職業観が大きく変化しているので、現状をしっかりとリサーチしないとプランを立てられない。

【指導助言：佐賀県】（佐賀県東部教育事務所教育指導監 石井 博善 氏）

○1つ目のポイントである「継続性」について

- ・全国的に学校課題の一つとしてあげられるいじめ撲滅と安心安全の学校づくりへの取組である。いじめのない安心して学校生活を送ることは基本となる部分である。安心して生活できる学校づくりという意識を持った学校、そして自治力がある生徒会ならば、いじめのない安心安全な学校づくりが今後もなされることであろう。毎年、教職員の配置により適材適所や人材育成の観点から校内配置・校務分掌がなされ、生徒会担当者も変わっていく。そこには教頭として、「継続的」な課題に対する「関与性」が生じる。

○2つ目のポイント「協働性」について

- ・児童会・生徒会の連携をどう活性化させて学校に生かすか、そのためにどのように管理職として関与していくか、どのような成果を期待するかなどのマネジメントが必要である。生徒会活動を通して、“自ら学び、主体的に判断し、行動し、よりよく問題を解決しようとする”、まさに「生きる力」を培うことにつながっていくものである。

○3つ目のポイント「関与性」について

- ・ミドルリーダーは「学校づくりを最前線で担うチームリーダー」であり、トップとローワーを結ぶ連結ピンとして、管理職の補助、担当校務の企画運営、連絡調整・支援を行う。
- ・教頭が取組の先にある生徒のゴールの姿をイメージし、進捗状況を把握しながら担当職員への指導助言等の働きかけや、時には「任せる」ことで意欲や自信へとつないだりするなど、教頭がマネジメントをされたことによって、市の取組との連結、生徒会の自主的活動、生徒会担当の資質向上、それぞれが機能的につながった。